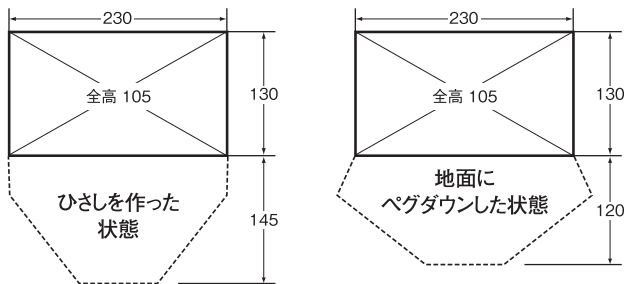


仕様

寸法

※図中の単位はcmです。

- ツーリング ウイングテント II #1622104



素材

- キャンピー: 68デニール・ポリエステル・タフタ (通気撥水加工、難燃加工)
- フロア: 70デニール・ナイロン・タフタ (耐水圧2,000mmウレタン・コーティング)
- フライシート: 75デニール・ポリエステル・タフタ (耐水圧1,500mmウレタン・コーティング)
- ポール: 7001超タジュラルミン [アルマイト酸化皮膜加工]、クロスソケット、ショックコードつき

その他

本製品の仕様、デザインは予告なく変更されることがあります。また、重量などのスペックには誤差が生じる場合があります。

取扱説明書

ツーリング ウイングテントII

Touring Wing Tent II

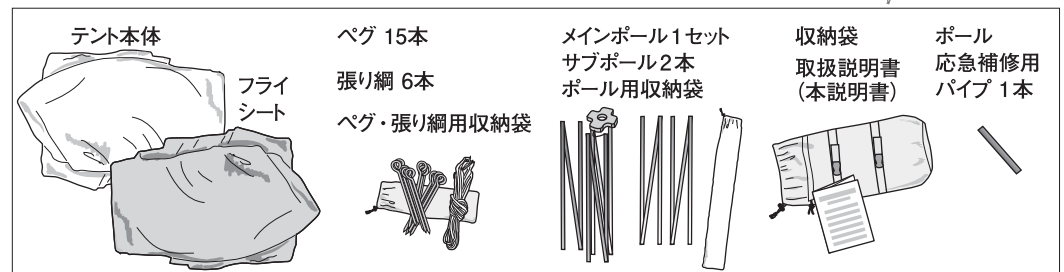
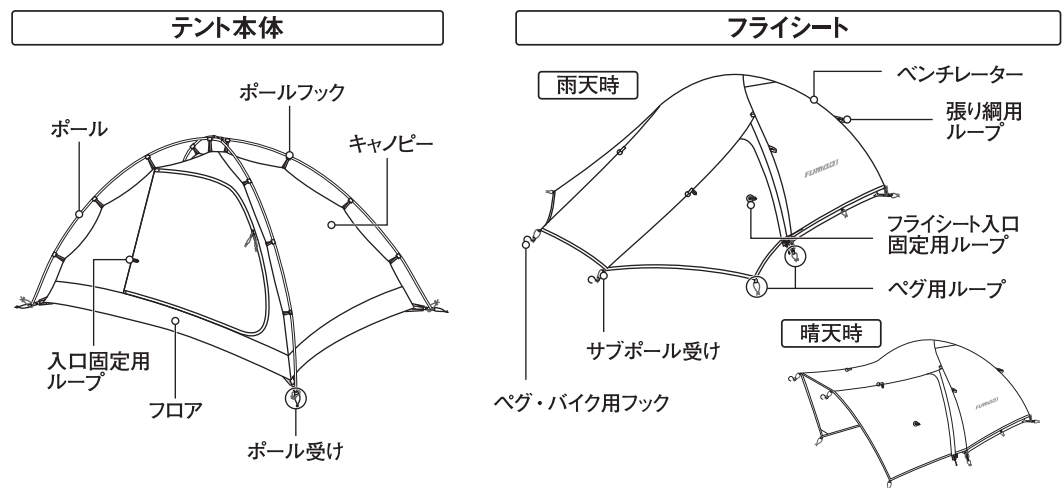
この度はお買いあげいただき、誠にありがとうございます。この取扱説明書 (以下「本説明書」といいます) は本製品の正しい取扱方法を説明しています。ご使用前に本説明書をよくお読みいただき、正しい使用方法をご確認ください。

なお、ご不明な点等ございましたら、販売店もしくは (株) グリーン・モールドまでお問い合わせください。本説明書は大切に保管してください。

特長

本製品は、軽量で設営が容易な3シーズン対応ドーム型テントです。パーティカル・クロス・システム (特許取得済) を採用することで広々とした居住空間と設営の容易さを両立しました。フライシートの前室は、バイクや付属のサブポールを使用することで大きく張り出したひさしにすることができます。テント本体の入り口と背面上部に開閉可能なメッシュ地を使用し抜群の通気性を誇ります。ツーリストやキャンパーなど自然を愛するすべての方々にお使いいただけます。

各部の名称



株式会社 グリーン・モールド 本社 〒220-0052 神奈川県横浜市神奈川区栄町10-35
 製造元: 株式会社モンベル サ・ヨコハマタワーズ サウスコート 101-2

URL <http://www.fumaplus1.jp>
 連絡先 03-5937-0644

■ 安全上の注意 必ずお読みください

危険 人が死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容です。

- 本製品内や本製品の近くでは、絶対に火気を使用しないでください。火災や一酸化炭素中毒の恐れがあります。
- 出入り口やベンチレーターを常に開け、換気に充分ご注意ください。
- 台風、落雷、強風、豪雨、大雪などの厳しい自然条件の際は、キャンプ場の管理担当者の指示に従い安全な場所に避難してください。
- 河原や河川付近に設営する際は気象条件により突然増水することがあります。設営場所は特に注意してください。

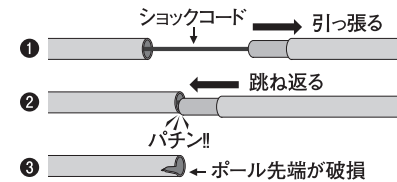
警告 場合により人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。軽傷または物的損害が発生する頻度が高いことが想定される内容です。

- 本製品を設営される際は、周囲の環境や気象条件などを充分考慮し、安全を確認してください。
- 出入口は風下側を選び設営してください。強風で本製品が飛ぶ恐れがあります。
- 本製品の設営の際は水はけがよく、できるだけ平らな場所を選んでください。
- 本製品の改造や分解などは絶対にしないでください。性能が損なわれ、十分に保護能力が発揮できない恐れがあります。
- 使用前は毎回必ず点検をしてください。老朽化が認められる場合や損傷が認められたり、疑わしい場合は直ちに本製品の使用を中止してください。本来の性能が発揮できない恐れがあります。
- 正しいお手入れ方法、保管方法を守ってください。誤ったお手入れや保管方法を行うと、本来の性能を発揮できない恐れがあります。

注意 人が傷害を負ったり物的損害の発生が想定される内容です。

- 稜線上や大木の近く、広い草原では落雷にも注意してください。
- キャンプ場やキャンプ許可地以外では使用しないでください。
- 設営地はできるだけ平坦で、危険のない場所を選んでください。
- 使用の際は必ずペグと張り綱で固定してください。砂地や雪上では付属のペグが使用できない場合があります。あらかじめ設営する場所の地面の状態を確認してください。
- バイクを利用し前室を設営する際は、転倒の恐れのない地面を選ぶか、バイクのスタンドの下に転倒防止の補強を使用してください。
- 雨天時は、バイクを使用して前室を張り出すことはしないでください。雨の重みでバイクが引っ張られ、転倒またはテントが破損する恐れがあります。
- 本製品は太陽光線の紫外線により生地が劣化します。また、硫黄ガスが発生する温泉地等でも寿命を縮めますのでご注意ください。
- 本製品に慣れるため、実際にフィールドへ出かける前に必ず試し張りを行ってください。
- 各パーツや付属のペグには鋭利な部分があります。取扱いにご注意ください。
- ポールを伸ばす際は各節を完全に差し込んでください。また、指を挟まないようにしてください。
- ポールを伸ばす際は周囲に十分に注意してください。近くに人がいないことを確認してください。
- ポールをテント本体に取り付ける際はポールの跳ね返りに注意してください。

- 小さいお子様にポールの組立てや、ペグ打ちの作業をさせないでください。
- 本製品のフライシートの生地には防水加工が施されています。外気との温度差が大きいと、結露によって生地の内側の壁面に水滴がつくことがあります。これは水漏れではありません。本製品の換気を行うことで改善することができます。
- ポールを組み立てる際は、奥まで差し込んでください。奥まで差し込まないとポールが破損する恐れがあります。
- ショックコードを必要以上に伸ばさないでください。ポールが跳ね返った際、衝撃でポール先端が破損する恐れがあります(右図参照)。
- 濡れたままで長時間他のものや各パーツと一緒に置いておくと色がる恐れがあります。



■ 使用前の点検

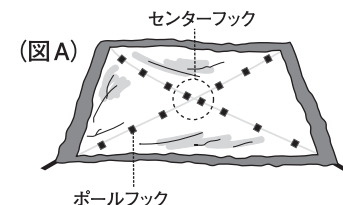
- ポールに亀裂などの破損がないか
- 生地に破れがないか

■ 使用方法

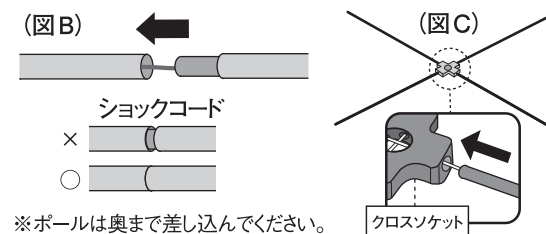
- **組み立て方法**
新しいテントに慣れるため、実際にフィールドへ出かける前に、必ず試し張りを行ってください。

1. テント本体の組み立て

- ① ポールフックが付いている面を上にしてテント本体を広げます。強風時は風でテントが飛ばされないようペグで仮留めしてください(図A)。

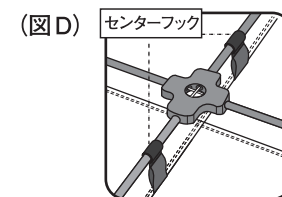


- ② ポールの中に通っているショックコード通りに接続組み立てます(図B)。ポールとクロスソケットは奥で止まるまでしっかりと取り付けてください(図C)。この時ポールは最も長い状態となりますので、周囲に障害物や人がいないかを注意してください。



※ショックコードを必要以上に伸ばさないように注意してください。

- ③ 天頂部中央のセンターフック2カ所(図A・点線内)を同一線上のポールに固定します(図D)。※組み立てたポールはすべて同じ長さなので、センターフックはどちらの同一線上のポールにも固定できます。



④ 四カ所のポール先端を底部テープのポール受け(鳩目)に差し込みます(図E)。

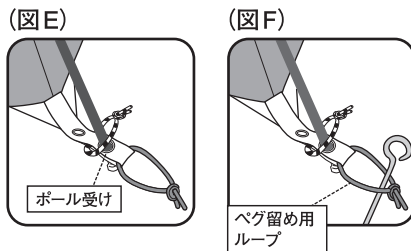
⑤ 残りのポールフックをポールに固定します。

⑥ テント本体の各コーナーに設けられたループをペグ留めます(図F)。

※ペグで留める際は、ペグをこれ以上打ち込めない深さまで、打ち込んでください。

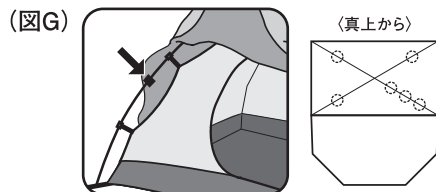
※付属のペグが使用できないガレ場や雪面では別売のメッシュアンカーやスノーアンカーなどを用いて固定してください。

※ポール受けへのポールの固定は通常は外側で行ってください。雨、結露などで生地が弱まった際は内側で行います。

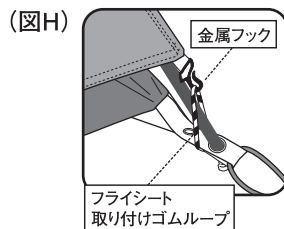


2. フライシートの取り付け

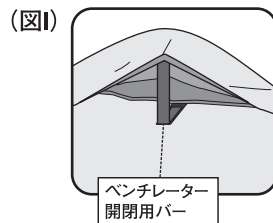
① テント本体とフライシートの出入口の位置を合わせ、フライシートをかぶせます。この時、フライシートの張り綱用ループ6カ所の裏側にあるベルクロテープをポールの位置(図G)に固定します。



② フライシート裾の金属フックをテント本体底部テープのフライシート取り付けゴムループに掛けます(図H)。



③ フライシート背面のベンチレーターはフライシートに付いているバーを操作することで開閉できます(図I)。また本体上部のジッパーを開閉することでテント内からも操作できます。

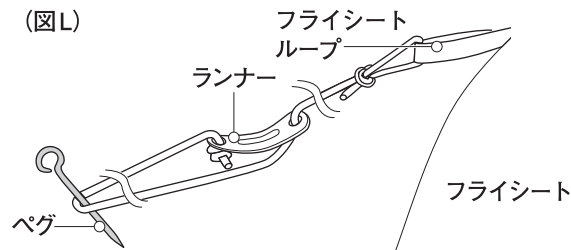
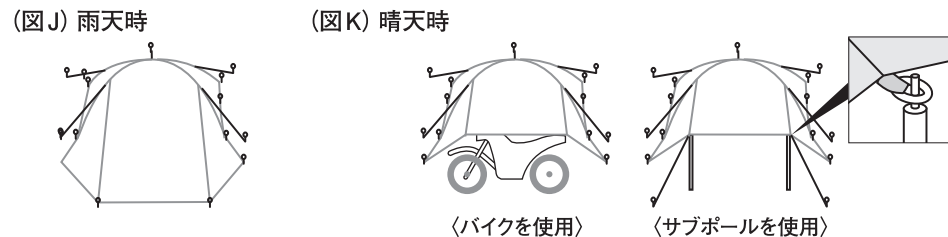


3. テントの固定

張り綱は風が吹くことを想定して必ず取り付けてください。張り綱用ループ4カ所から張り綱をとります(図J)。付属の張り綱にはランナー(自在留め/図L)がついており、ランナーを通したループをペグまたは別売りのメッシュアンカーなどにかけて長さを調節します。フライシート裾部のフックについてもバイクまたはペグで固定します(図K)。なお、このテントにハンマーは付属していません。

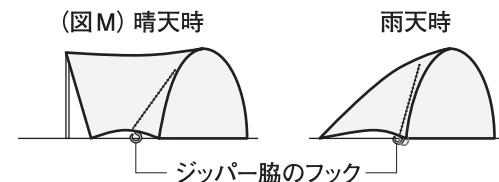
※ペグで留める際は、ペグをこれ以上打ち込めない深さまで、打ち込んでください。

※バイクを利用し前室を設営する際は、転倒の恐れのない地面を選ぶか、バイクのスタンドの下に転倒防止の補強を使用してください。



※張り綱用ループに張り綱を結んだ状態で収納することで、次に使用する際に、設営しやすくなります。

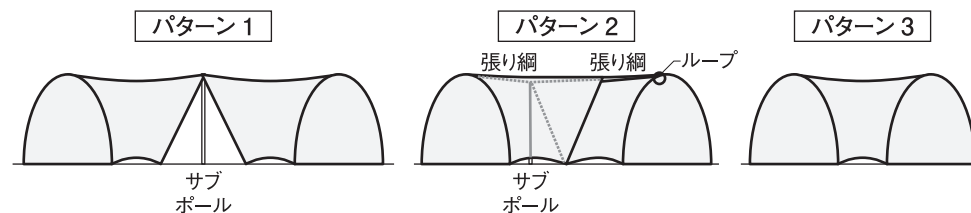
雨天時にペグダウンする際は、ジッパー脇のフックをゴムループに引っ掛けることで、生地のだぶつきをまとめることができます(図M)。入口の対面側も同様です。



※雨天時は、バイクを使用して前室を張り出すことはしないでください。雨の重みでバイクが引っ張られ、転倒またはテントが破損する恐れがあります。

4. テント二張りの組み合わせ

二張りを向かい合わせにして、ひさしを上げて繋げることが可能です。



○ 収納方法

①ペグを抜きます。

※ペグを引き抜く際は直接手で握らずに張り綱等引っ掛けて抜いてください。ペグには鋭利な部分があり、直接手で握るとケガをする恐れがあります。

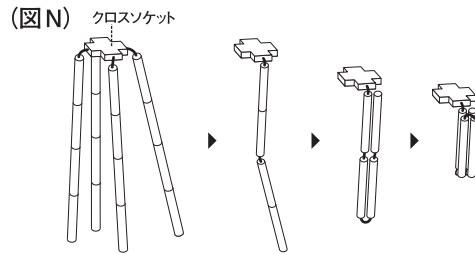
②フライシートを外します。

③ポールフックをポールから外します。

④ポールの端をポール受けから外します。その際ポールが跳ね返ると危険ですので、ポールが伸びきるまで手を離さないでください。(P3 注意参照)

⑤ポールを収納する場合はクロスソケットからポールを抜き、真ん中から折りたたむようにします(図N)。こうすることにより、ショックコード全体に均等にテンションがかかり、ショックコードの寿命を伸ばすことができます。

⑥収納袋の幅にテント本体を畳み収納します。その際、ペグは必ずペグ用収納袋に入れてください。そのまま収納すると本体生地を傷つけることがあります。

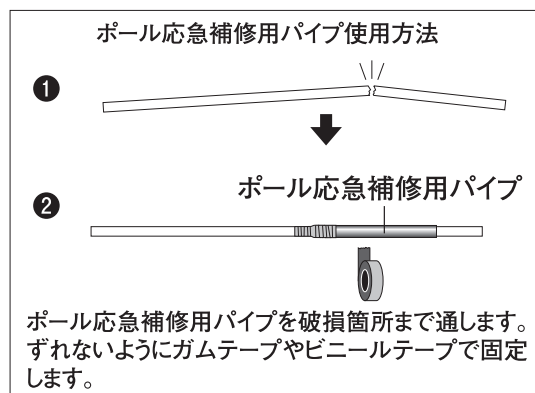


※図はイメージです。テントによって継ぎ数は異なります。

○ 破損時の対応

1. ポール

本製品のポールが万一破損した際は以下の通り応急処置をしてください。テント設営時に強風や豪雪などの理由によりポールが折れる場合があります。副木を添えて応急処置をすることもできますが、本製品の付属品であるポール応急補修パイプを用い応急処置も可能です。



ポール応急補修パイプを破損箇所まで通します。ずれないようにガムテープやビニールテープで固定します。

2. テント本体

生地の破損については別途リペアシートをご用意しております。

※使用後は修理を依頼してください。販売店もしくは(株)グリーン・モールドにお問い合わせください。

■ お手入れ方法

間違ったお手入れ方法や保管方法は本製品の寿命を縮めます。使用後や保管時は以下の点を参考にしてください。

- 使用後は、泥汚れなどをあらかじめ水洗いし、陰干して乾燥後に収納してください。汚れたまま、あるいは濡れたまま長時間放置するとカビの発生する可能性があり、また生地も劣化しやすくなります。
- 長期の使用により、フライシートやフロアなどの撥水性能(水を弾く力)が低下した場合は別売のS.R. スプレー等の撥水スプレーをご使用ください。
- ドライクリーニングや洗濯機による洗濯はできません。生地を傷める恐れがあります。
- ジッパーの動きが固くなりましたら、別売りのスムーズライダー™やローソクのロウを塗ると回復します。
- ポールやペグは汚れを濡れタオルで拭き取った後、機械油を薄く塗っておきます。

■ 保管方法

- 本製品を長期間使用せずに保管する場合は、なるべくゆるくたたみ、直射日光の当たらない風通しの良い場所に保管してください。付属の収納袋は、携行性を重視しているため、きつめにたたまないといけませんので使用を避けてください。
- 火のそばや暖房器具のそばなどの高温になる所に置かないでください。変形や損傷の原因になります。

■ 廃棄方法

- 廃棄方法はお客様の自治体の収集方法に従ってください。

■ アフターサービス

お問い合わせいただきました本製品は万全を期して製造しておりますが、万一不備な点がございましたら、お問い合わせいただいた販売店、もしくは下記の弊社窓口までご連絡ください。

製造上の欠陥による不具合の場合は無償で交換させていただきます。なお、修理、交換等の要否につきましては、弊社の裁量にて判断させていただきます。

なお、以下のような原因での破損、不良につきましては保証いたしませんのでご了承ください。

- 本製品の誤った使用方法によるもの
- 間違ったお手入れ、保管方法、経年変化による素材劣化
- 乱暴な取り扱いによるもの
- その他、製造上の欠陥以外の原因によるもの

破損時は弊社にて診断をして、修理が可能な場合はご要望により有償にて修理させていただきます。